

令和3年度 第1回 荒尾市地域づくり推進委員会 意見報告書

日時：令和3年10月1日

荒尾市地域づくり推進委員会委員

熊本県立大学 教授 澤田 道夫 委員
女性ネットワーク荒尾 JA たまな荒尾市女性部 会長 平島 仁美 委員
熊本県建設業協会荒尾支部 支部長 吉村 厚司 委員
荒尾市校長会 副会長 谷口 雄一 委員
社会福祉法人 荒尾市社会福祉協議会 事務局長 塚本 雅之 委員
荒尾市地域学校協働本部 田添 美奈子 委員
荒尾市花いっぱい推進協議会 監査 齋 智恵子 委員
荒尾地区協議会会長会 会長 河部 啓宣 委員
市民公募委員 甲木 喜一郎 委員

事務局：荒尾市くらしいきいき課

審議事項

- 1 荒尾市協働の地域づくり推進委員会の主な役割と運営案について
- 2 令和3年度協働の地域づくり活動方針について
 - (1) 各地区協議会の令和2年度の活動実績及び令和3年度の取組みについて
 - (2) 令和3年度における協働の地域づくりの推進へ向けた事業案について
 - ① 地域情報発信支援事業
 - ② 協働の地域づくりに係る人材育成事業

※新型コロナ対策として書面開催とした。各委員からの意見を10月1日～10月15日の期間で受け付け、事務局にて意見の取りまとめを行った。

審議

審議（1）荒尾市協働の地域づくり推進委員会の主な役割と運営案について

○議事概要

荒尾市地域づくり推進委員会は、平成24年4月施行の荒尾市協働の地域づくり推進条例に基づき、条例の適切な運用や、地域づくりを推進するために必要な施策等を審議するために設置している。

本市におけるこれまでの協働の地域づくりに関する経緯等を確認し、地域づくり推進委員会に対する今後の進め方や論点などについての意見を集約した。

○意見等

・「時代に即したまちづくりを推進するための条例の見直しの助言等を行っていただく」とあるように、コロナ禍の中での工夫・改善した実践事例等があれば教えていただきたい。それがこれからのスタートとなるのでは。

・コミュニティの希薄化は今後進んでいく。また、コミュニティの維持にはコストがかかる。コミュニティが希薄になった現代こそ、顔が見える向こう三軒両隣の助け合いが必要（防災の支援体制も同じ）。狩猟・農耕社会では集団で暮らすことで利益を得ていたが、産業革命時代から個人で生活が可能となった。暮らしやすい地域をどうやって作るのかを考えたときに、行政がやるものだと思う意見が多いのが現状。地域のために汗を流せる人が必要で、そうした人が多くなると課題は解決する。地区協議会や町内会では範囲が広すぎるので、まずは向こう三軒両隣、顔が見える範囲からつながりを作っていくことが重要。

・地区協議会が設立して約10年が経つ。10年経てば行事もマンネリ化したり、役員も高齢化していく。その世代交代が上手くいっている所の事例を挙げてほしい。それによって、行事等もかなり変化があるのでは。

・高齢化が進む荒尾市において、地域の高齢者などのいわゆる「社会的弱者」を一人も取り残さないためにも、これまで以上に「地域における互助のまちづくり」を創造する論点で協議を行っていただきたい。

・コロナ収束はまだ数年単位の話で、今ほとんどのイベント活動など中止となっており、このままの状態では伝統の継承などにも影響を及ぼすかも知れない。形や実施の仕方等を少しずつ変えながら、活動出来ればと思う。

また、年1回の美化月間の時だけではなく、通学路の歩道のゴミ拾いや草取りを実施ではどうか。ラムサール条約に恥じないように、海岸のゴミ拾いもたくさんの市民が参加するきれいなまちでありたいと思う。

・地方分権の進展や、市民ニーズの高度多様化、地域コミュニティ機能の低下などの課題が挙げられているが、全ての問題を解決できる方法があるのか疑問である。今の行政は専門的なコンサルタントに任せていて、市民、地元の団体や企業の意見等をしっかり聞いていないのでは。

2 令和3年度協働の地域づくり活動方針について

(1) 各地区協議会の令和2年度活動実績及び令和3年度の実績について

○議事概要

各地区協議会とも新型コロナウイルスの影響により、地域活動が停滞している状況が続いているが、感染対策の工夫を講じながら会議や行事等が行われている。令和2年度の各地区の活動に対するご意見や、今年度のコロナ禍においても、必要と思われる取組みについて意見を集約した。

【令和2年度の活動に対する意見】

○意見等

・会議、行事等の中止については仕方がない。その中でも、一か所に集合しての会議、行事でなく、パトロールやウォーキングなど屋外での取組は実施できているようである。また、SNS等を活用した情報共有は、なかなか対面での話し合い等ができない中、有効な手立てであると考えられる。

- ・地区毎に行事計画・実行数にばらつきがある。
- ・アフターコロナを見据えて、ガイドライン（屋内外）が有ればやりやすいのでは。
- ・屋外イベントはそれなりの数の計画はあるが、屋内での講演、講座の計画が少ない。
- ・各地区の事務通信費の予算にばらつきがあるので、メール・LINE・Facebook などを使い予算の削減に努め、他の事業等に流用してはどうか。
- ・コロナ禍によって中止となったスポーツ関係の予算を防災用品の購入に充ててはどうか。
- ・イベントはウォーキング・軽スポーツが多いが、参加する人の年代や参加回数などは調べられているのか。
- ・平井地区の LINE 活用や防犯腕章の整備、井手川地区の防災部会の設置は良い取り組みだと思う。
- ・各地区共に、コロナ禍の中でできる事業等を行っている印象。中でも府本地区は特に頑張っている。
- ・コロナ禍だからこそ新しい取組みが生まれ、また、今までの地域活動でできることが明確になってきたと思う。
- ・大人数が集まるイベント型の取組みも地域活動として必要だが、互助としての「生活支援」など、少人数での活動に取組むことができれば、コロナ感染に配慮しながらも継続して活動できるのではないか。
- ・花いっぱい推進協議会は、園芸教室や旅行、講演会などの活動は全て中止した。陸上競技場、消防署前の花壇・駅・万田ステーションなどの公共の場所の植栽活動は続けている。
- ・市民自らが地域づくりの主体であることを認識し、自らできることを考えて実践することが大切。
- ・意識や感覚というのは、小さい頃からからの積み重ねであると考えており、本気で意識を変えたいのであれば、意識が変えられる本質から問題として取り組まなければならない。

【令和3年度における取組みへの意見や提案】

○意見等

- ・これまでどおりの行事を進めていこうとするなら、今後も中止や延期の可能性もあるのではないか。コロナ禍の中、何ができるのか工夫・改善・削減、見直しできるのではないかと検討することも必要なのでは。
- ・アフターコロナを見据えて、ガイドライン（屋内外）のガイドラインの策定が必要。
- ・各地区の代表者による意見交換会などは行われているのか。他の地区の様子を聞くことはとても参考になると思う。
- ・事業案にある「地域におけるデジタル化」は市役所と各地区の代表者間のみではなく、地区代表者各地区や地区以外の人との間での情報発信や情報伝達ができることで、地域活動の更なる活性化が期待できる。
- ・ICT を活用した取組みとして「健康ポイント」「ボランティアポイント」「行政（協

働)参加ポイント」あるいは「地域活動参加ポイント」などがあれば、多くの住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティの育成につながることを期待できるのでは。

花いっぱい推進協議会の活動は、今年度もほとんど中止になっている。公共の花壇の植栽は例年どおり、12月に実施する予定。

(2) 令和3年度における協働の地域づくりの推進へ向けた事業案について

○議事概要

今年度実施予定の地域情報発信支援事業について、どのような情報や機能があれば地域活動に対する理解や参加意欲が高まると思われるかや、人材育成の観点から毎年実施している協働の地域づくり全般に関する活動について意見を集約した。

○意見等

- ・それぞれの地域における活動については、その内容や有効性について広く周知、広報していくことが活性化につながると思う。毎月発行の「広報あらお」にQRコードをのせて活動の様子を知ってもらう取組を行ってはどうか。
- ・市役所に行かずとも申請が可能な、また書類のダウンロード可能になるよう進めてほしい。庁内でも、脱紙が進むように、庁内のたらい回しが無くなるようなデジタルトランスフォーメーションを進めてほしい。
- ・見守り活動と災害時要支援者支援活動を合体した活動を進めることが重要。
- ・地域の高齢者におけるデジタルの活用が十分ではないことから、スマートフォンの便利さと使い方などを一定程度理解できるような講座を地域で開催して、高齢者における普及や活用につなげるような取組みができれば、テレビ電話で高齢者の表情や様子を含めた安否確認などが実現できることから「地域における互助のまちづくり」が充実するのでは。
- ・今回のコロナ対応で、オンライン会議の有効性が多くの方に理解されたと思う。地区住民のデジタルに関する知識や技術の一定程度の向上を図るために、「ZOOM」の利用などに関する講座を地域で開催してはどうか。
- ・コロナの影響が大きく地域間のコミュニケーション不足をととても感じている。
- ・防災無線が設置されたことにより、平日の夕方やその他連絡(ワクチン接種等)がととても助かる。みんながインターネットやスマートフォンを持っているとは限らないので、凄くよい取組みだと思う。

その他

○議事概要

各団体における近頃の地域活動等において課題と感じていることや、新たに検討していること、その他、本市の協働の地域づくり全般についての意見を集約した。

○意見等

- ・学校では昨年からは、外へ向けての活動は控えている状況。しかし、学びをとめない

ため、外部人材を招き、ワークショップ形式で学習を行うなどの取組を行ってきた。しかし、どうしても活動に制限がかかってしまうことも事実である。「～ができない」よりも、どう工夫していけば出来るのか、発想の転換が求められるのだと考える。

- ・障がい者を取り込んだ地域行事が全くない（行政も同じ）。障がい者と共に行える事業を開催してはどうか。（例：卓球、バレー、ボッチャなど）

- ・あらお防災人の会は防災、防犯講座の開催で各町内会及び各地区協議会への出前講座は可能。

- ・LINE を活用して、街の不具合箇所速報システムを立ち上げではどうか。

- ・パトランという活動を通じてジョギングしながら防犯活動やごみ拾いを行っている。ジョギングしながら、散歩しながらなどレジ袋とトングを持ってゴミを拾うことで安心安全なまちづくりにつながると思う。

- ・地域学校協働活動では、地域の高齢者や成人、学生、PTA、NPO 民間企業、団体機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携、協働して行う様々な活動を行っている。地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点で現在、子どもたちが地域に何ができるかという事を子どもたちが自分で考え、立案している。各地域づくりに子どもの参画で、頑張っていきたいと考えている。

- ・人材不足や若い人達の参加を増やす取組を検討する必要がある。

- ・府本地区の道路清掃、道路景観を良くするために花壇や道沿いの花植えなど、自分の地域のできることを行っている。荒尾市も様々な花植えなどの企画をされているが、花を植えるだけで終わって良いのか。手入れをしてきれいな花が咲き誇って、道路を通られる人たちが咲いている花が綺麗だと感じたときにこそ、その目的が果たせるのではないかと。ただ、慈善活動をやるのではなく、目的を持って、計画的に進めてほしい。